

令和元年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第 11 回検討会での質問に対する回答について

第 11 回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－ 1

深掘れをした橋脚は、どのように対応するのですか？特に大きく洗掘した P 3. P 2. は、ほとんどと深掘れをおこすのではないかと心配です。

◆回答－ 1

現時点では、構造上の問題になる様な深掘れではございませんのでご安心下さい。今後も環境モニタリング調査等で橋脚周辺部の地形を注視しつつ、必要に応じて適切に対策を検討してまいります。

○質問－ 2

供用後、モニタリング 2 年が適当なのか検討会で話しあいましたでしょうか？

◆回答－ 2

環境モニタリング調査計画については、第 4 回検討会（平成 26 年 8 月 27 日開催）で承認されたスケジュールをもとに実施しております。その詳細につきましては第 4 回検討会資料をご確認下さい。

■第 4 回検討会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0827/>

○質問－ 3

検討会が開かれる前に、委員の先生方に説明をし、各先生方に余裕をもってデータ集は、確認していただいているのでしょうか？

◆回答－ 3

各検討会・部会を開催する前には、時間的な余裕をもって全ての委員を訪問して資料の説明を行い、またデータ集についてもお渡ししております。

○質問－４

沖洲海浜が、やせていってるといふご発言がありましたが、それは、どうしてなのですか？高速道路の建設や、しゅんせつの影響があるのですか？

◆回答－４

沖洲海浜に対して高速道路の建設や浚渫を行っておりません。ご質問いただいた沖洲海浜に関しましては、本事業と直接的な関係が無いと判断しています。

○質問－５

吉野川河口に訪れる、シギチドリの数は、変わらないという結果は、いつと比べてのことなのでしょう？

◆質問－５

本事業で実施している鳥類調査に関しましては、工事開始前の平成 26 年 9 月より調査を行っており、工事開始前と工事中のシギ・チドリ類の出現状況を比較しても、工事の影響によるシギ・チドリ類の減少傾向が確認されておりません。詳細なデータについては、調査結果のデータ集を公表しておりますので、そちらをご確認下さい。

■環境モニタリング調査結果データ集

https://corp.w-nexco.co.jp/activity/open_info/progress/individual/14/

○質問－６

今年の 4、5 月のマリンピアのシギ・チドリの利用が少なくなったことについて、右岸側の橋の工事が大型化してきたのでそれをいやがったのではないのでしょうか？

◆回答－６

シギ・チドリ類の出現状況の変化については、第 10 回及び第 11 回検討会にて報告した通り、シギ・チドリ類の出現場所の変化には河口干潟と右岸部が接続したことによる聖域性の低下や、河口干潟面積の拡大、シギ・チドリ類の環境への馴化といった様々な要因が想定されています。

ご質問内容については、マリンピアと沖洲側で行っている工事箇所が離れているため、工事による影響は少ないと考えられるものの、上記の通り様々な要因があることから特定が困難であると判断しております。

なお、吉野川河口に出現しているシギ・チドリ類に減少傾向は認められておりません。

シギ・チドリ類の出現状況については、今後も環境モニタリング調査を実施し、その結果を踏まえて委員よりご指導、ご助言をいただきながら適切に調査を進めていきたいと考えております。

第 11 回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－ 1

地元市民説明会（現地）も実施してください。

◆回答－ 1

地元市民への現地説明会については、関係する周辺自治会代表の方と見学会内容や日程について調整のうえ実施する方向で考えております。

○意見・要望－ 2

モモノハナガイとテナガツノヤドカリの周辺の生息分布の調査をぜひ実施して下さい。しらさぎ大橋の時は、ウモレマメガニの分布調査を工事後期で行い、モニタリングの指標種となり、その後の環境保全のために重要な役割を果たしている。

◆回答－ 2

阿波しらさぎ大橋整備事業では、希少種であるウモレマメガニが橋脚周辺部及び航路浚渫した箇所でも多数確認された状況を踏まえて調査を追加して影響評価を実施されたと聞いています。

本事業で確認されたモモノハナガイとテナガツノヤドカリについては、これまでの調査の中で 1 個体ずつ確認しておりますが、調査結果を委員に説明したところ、これらに対して特段の環境保全対策が必要ないことを確認しております。底生生物調査については、今後も引き続き、委員からご指導、ご助言いただきながら適切にモニタリング調査を進めていきたいと考えております。

■第 10 回検討会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h30/0914b/>

○意見・要望－ 3

河口域のドローン撮影をし、[河口～しらさぎ上流まで]（渡り鳥への配慮は必要と思いますが）webなどで、一般公開していただきたい地形変動 底質変化が、ざっくりとわかるのではないのでしょうか？

◆回答－ 3

NEXCO西日本ホームページにおいて、「建設現場からのお知らせ_四国横断自動車道（徳島東 IC～徳島 JCT）建設状況」としてドローン撮影による現場状況を既に公開しています。

■NEXCO西日本 HP 建設進捗状況

https://corp.w-nexco.co.jp/activity/open_info/progress/individual/14/#yoshinogawa

また、本事業で実施している地形調査では航空レーザ測量を実施し、測量に合わせて航空写真も撮影しております。地形変動及び底質変化については、既に公表している環境モニタリング調査結果データ集にも収録しておりますので、ご確認いただければと思います。

■環境モニタリング調査結果データ集

https://corp.w-nexco.co.jp/activity/open_info/progress/individual/14/

○意見・要望－ 4

事業の影響評価は、ぜひ実施して下さい。このように貴重なデータが集積されたのですから、今後吉野川河口保全につなげていただきたいと思います。

◆回答－ 4

事業の影響評価については、これまでの検討会でお示ししてきた通り、適切に実施しております。蓄積したデータについても、環境モニタリング調査結果データ集を公表しておりますので、ご確認いただければと思います。

■検討会の開催状況及び環境モニタリング調査結果データ集

https://corp.w-nexco.co.jp/activity/open_info/progress/individual/14/

○意見・要望－ 5

しゅんせつ土砂の有効活用について、阿南←沖ノ洲などへの 移すとの提案について、移入する先の砂浜がやせていく根本的な原因を改善することもあわせて、考えないといけないと思いますが土砂を移設した、先の砂浜について、NEXCOさんは、県といっしょにそれがどうなっていくのかモニタリングをしてください。

◆回答－ 5

本事業で発生する浚渫土の有効利用策として、徳島県と事業調整のうえ可能な限り公共事業で有効利用することを考えていますが、仮に徳島県が実施する養浜事業に有効利用する場合、事業者は徳島県です。NEXCOは浚渫土（砂）を提供するという立場であり、養浜事業者ではありませんので、主たる事業者である徳島県がモニタリングの必要性等を判断の上、実施するものと考えています。従いまして、高速道路の建設・管理が主たる事業のNEXCOが建設事業で提供した浚渫土の砂浜状況のモニタリングについては、このような意見があったことを情報提供しておきます。

浚渫土砂の有効活用については、徳島県とも連携して調整を行いながら、引き続き適切な処理方法を検討してまいります。

○意見・要望－ 6

高速車道上の照明と野鳥の関係

①しらさぎ大橋と名田橋の照明を、LED照明に変えて野鳥（特にコガモ）が橋と距離をとるようになった。LED照明は過去に無く、慣れもあるかと思っていたが、どちらの橋でも200～300m以上、近づくない。野鳥とLED光の関係についてのチェック（検討）もしてほしい。

②夜間に欄干の手すりと自動車のヘッドライトがヘビの動きに近い様です。(照明設置の構造上の結果なのか?) ①、②どちらかとも考えられる?

◆回答ー6

吉野川大橋(仮称)は、道路上に照明を設置しない構造としております。また、第6回環境部会(平成27年10月2日開催)、第6回検討会(平成27年10月27日開催)で夜間走行車両のヘッドライトによるシギ・チドリ類への影響に関する検討を行っており、影響がわずかであること予測されております。詳しくは第6回環境部会、第6回検討会資料をご確認ください。

■第6回環境部会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1002/>

第6回検討会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1027/>